

「森のアスレチック (秋編・2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

山荘の裏庭に設置した、手作りの「森のアスレチック」は、「安全性」「経済性」「設置の簡単さ」の考え方で、数日間ではほぼ一人で設置した。最も重要なのは「安全性」である。すべての遊具は、私の体重で何度も試して、安全を確かめておいた。



この伸縮アルミはしごは、最長8メートルまで伸ばせる。カラマツの幹から脱落しないように、ザイルで中・上部を幹に固定してある。この「はしごのぼり」は子どもたちに好評だった。自分の力でのぼれるところまでのぼることができるのが、面白いのだろう。



「森のブランコ」も好評だった。鎖に樹脂製の座り板をつけただけの簡単な製品だが、乗ってみると、風を切って楽しい。これも耐荷重は200kgなので、子どもなら絶対に安全である。



ブランコは、カラマツの幹と幹の間に設置してある。鎖が斜めになっているところが、公園のブランコとちがう。慣れてくると、脚を上げて、スピードも出せる。こうすると、森の木々や空がよく見えて楽しい。



もっと慣れてくると、体全体を反らして、地面まで見えるようになる。こういう楽しみ方は、公園のブランコでは難しいだろう。



このご家族の子どもたちは、幼稚園児から中学生まで4人。森のブランコは常に人気があった。